



Web Fairy

第126号

Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第107回 WFP 作品展(再掲)
- ・ ちょっと早い 2019 年年賀詰作品展

結果発表

- ・ 第106回 WFP 作品展
- ・ Fairy of the Forest #57

読み物

- ・ 読者サロン
第106回 WFP 作品展 106-8、2つ?の修正
図(占魚亭)

(改訂:2018/12/22)



2018/12

はじめに



今年

今年も10日余りとなりました。平成 30 年は皆さんにとってどのような年だったでしょうか？

WFP にとっては、ちょうど 6 月で 10 周年を迎えることができました。始めた時には、まさか自分がこんなに長くやるとは思ってもいませんでした。もっと優秀な人材はいくらでもいるでしょう。でもまああまり頑張り過ぎないところが長く続いた要因かもしれませんね。いろいろとやる事が多くて、解答への時間の掛け方が以前よりパワーダウンしているところ(老いからか新しいルールに付いていけなくなりましね)は実感しています。まあこの辺りも頑張りすぎずに行こうかと思っています。

今年のニュースで一番の出来事は、やはり2月に今川健一さんが亡くなられたことでしょうか。WFP をはじめフェアリー作品への解答で私たちを楽しませてくれました。まさに闇雲流・根性の解答者でした。前年の佐々木寛次郎さん、市村道生さんに続いたの訃報でしたので流石に私も辛かったです。

私の体もかなりガタが来ていますが(毎朝4錠薬を飲んでます)、やはり健康あつての趣味ですので養生しないといけません。皆さんも体には充分留意されますように。

さて来年は、平成最後の年になります。5月からは新元号となりますので、それに向けての企画も考えていきたいと思います。

ともあれ皆様にとって来年、平成31年が良い年となりますことを願っております。

良いお年をお迎え下さい。

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第126号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々の HP アドレス
*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<http://d.hatena.ne.jp/sengyotei/>

第107回WFP作品展(再掲) 担当：神無七郎

今月の WFP 作品展の新規出題はお休みです。本稿では第 107 回 WFP 作品展の出題稿を再度掲載します。

〔第 107 回作品展各題への補足説明〕

第 107 回の出題は 12 題。内訳は Pontamon 氏 1 題、神無太郎氏 2 題、たくぼん氏 1 題、一乗谷酔象氏 1 題、上谷直希氏 1 題、青木裕一氏 1 題、占魚亭氏 2 題、変寝夢氏 3 題です。いつもより作者数が多く、いろいろなタイプの作品が登場するので楽しそうですね。

その代わりルールも多様で頭の切り替えは大変かもしれません。いつもより長い解答募集期間を利用して、着実に一問ずつクリアしていきましょう。

107-1 は Pontamon 氏による簡潔な条件の推理将棋。条件が少ないので、ヤマが当たるかどうかで大きく難易度が変わりそうです。氏の作風による推理が鍵になりそうですね。

107-2 と **107-3** は神無太郎氏の作品。氏は最近 Imitator 作品での登場が続きましたが、今回は対面と PWC ということで、比較的慣れ親しんだ分野に戻ってきたと言えるかもしれません。**107-2** は持駒歩のみなので、打歩詰にならないように進めること。**107-3** は PWC なので駒を消さずにステイルメイトを達成するためのテクニックを駆使してください。

107-4 は非標準駒数作品。盤面を埋め尽くす「と金」に圧倒されますが、その分手が狭いのでサクサク手が進むと思います。ただ、「禁欲」の条件があるので収束で少し考えさせられるかもしれません。作者がたくぼん氏だからといって、「強欲」と間違えないように！

107-5 は一乗谷酔象氏創案の「天使詰」。天使詰は双方協力して同一局面を避けつつ最長の詰みを目指すルールですが、それでもこの狭い形で 100 手を越えるとは驚きです。難問だとは思いますが、怯まず挑戦してください。

107-6 は久々登場の上谷直希氏の作品です。Queen の性能になった玉を詰めないといけないので大変そうですが、攻撃陣も強力。各駒の性能を最大限に活かしてください。

107-7 は今回唯一の協力系ではない作品。前回に引き続き対抗系ルールの面白さを味わえると思います。「最善」指定があるので、攻方最短

順を解答してください。

107-8 と **107-9** は占魚亭氏の作品。Imitator が使われているのはいつも通りですが、今回はそれに AntiAndernach が加わっています。受方持駒制限のある **107-8** と手数短い **107-9** のどちらが解き易いかは微妙ですが、どちらも難しいと思えば間違いはないでしょう。また、どちらかの作品は、第 104 回 WFP 作品展における氏の短評の中に解図のヒントが隠れています。

107-10～**107-12** は変寝夢氏の作品。最近登場した All-in-Shogi 2 作と、中立 Locust を使った作品です。All-in-Shogi の 2 作は第 105 回の作品が参考になると思うので、未見の方は第 105 回の結果稿を参考にしてください。

107-10 の玉は不動玉。一口に「不動」と言っても Dummy (偶) のように「利きがない」場合や、Zero (零) のように「現在の位置にのみ動く」場合、「利きは持っているが動かない手順を求める」(手順の制約) という 3 つのケースがありますが、今回は利きがない Dummy になっているので、「偶」で不動玉を表しています。

107-12 は中立駒が 2 枚もあるのが厄介。中立駒はどちらからも動かせるので、詰めるときだけでなく、ステイルメイトの時も扱いが難しい駒です。まずは Locust がどのような場合に動き、どのような場合に動けないのかを頭に入れましょう。そうすれば自玉の包囲と、中立駒の凍結を同時に達成する方策も立てられると思います。

解答要項

第 107 回分解答締切: 2019 年 2 月 15 日(金)

宛先: k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ k7ro.ts@gmail.com へ。

メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

WFP 作品展：年末年始の予定

来年1月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、WFP 作品展 12月号の新規出題と来年1月号の結果稿はお休みさせていただきます。

今後の予定は以下のようになりますので、あらかじめご承知ください。

	12月	1月	2月
第107回	再掲	再掲	結果
第108回		出題	再掲
第109回			出題

ルール説明

※WFPのページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule97.pdf>)があるので、それも参考にしてください。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【対面】

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【スタイルメイト】

王手は掛かっているが合法手のない状態にする。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1)駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2)位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3)駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。

【禁欲】

駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。

【天使詰 (最長協力詰)】

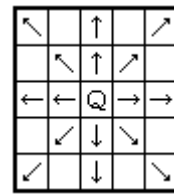
先後協力して最長手順で受方玉を詰める。

(補足)

- ・悪魔詰と異なり不詰は避ける
- ・手順中に同一局面があってはならない (初形を含む)

【Queen】(Q)

チェスの Queen。飛車と角を合わせた性能を持つ。



(矢印がQの走る方向)

【最善詰】

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。(補足)

- ・いわゆる普通の詰将棋から枝葉(無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則)を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数余詰は不問。

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【AntiAndernach】

駒を取らない盤上の移動(駒を取る及び持駒を打つ以外の着手)を行うと、着手後に相手の駒となる(玉を除く)。

(補足)

- ・細則は Andernach と同様で「駒取り」を「駒を取らない盤上の移動」に読み替える。
- 1)駒を取らない盤上の移動で二歩になる場合相手の駒にならない
 - 2)駒の向きの転換は成生の選択の後に行われ、成生の選択権は駒を取った側にある
 - 3)駒を取らない盤上の移動の場合に限り、8段目への桂の不成、9段目への桂香歩の不成が可能(二歩の例外を除く)

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【All-in-Shogi】

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置

に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手とする。(WFP122号参照)

(補足)

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
- 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる

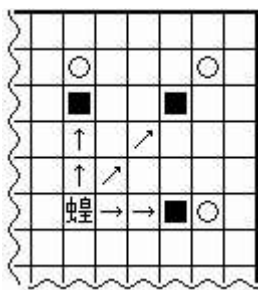
【Dummy】(偶)

自分では動かない駒


【Locust】(蝗)

フェアリーチェスの Locust (蝗)。

Queen の利きの方向にある敵駒を跳び越えその1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る。



(○が蝗の利き。
■は敵駒。これを取って○に移動する。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりすると跳べない。)

【中立駒】(「」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

<第107回>解答締切:2019年2月15日(金)

■ 107-1 Pontamon 氏作

推理将棋

「11手で詰めたって？」
「うん、最終手の5段目での飛成は初の駒成だったよ」

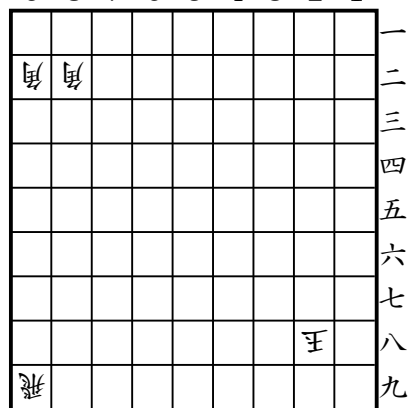
[条件]

- 1) 11手で詰み
- 2) 最終手の5段目での飛成は初の駒成

■ 107-2 神無太郎氏作

対面協力詰9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

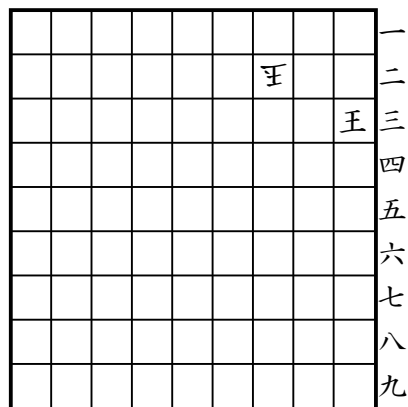


持駒 歩4

■ 107-3 神無太郎氏作

PWC協力自玉スタイルメイト10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 香

■ 107-4 たくぼん氏作

禁欲協力詰 73手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	卒		一
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	二
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	三
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	四
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	五
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	六
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	七
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	八
王		ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	九

攻方持駒 金31

受方持駒 なし

■ 107-5 一乗谷酔象氏作

天使詰 101手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							香	銀	角	一
							香		銀	二
							歩	歩	皇	三
							皇		王	四
							香			五
								王	爵	六
							爵			七
										八
										九

持駒 飛桂

■ 107-6 上谷直希氏作

協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
角										四
										五
							王			六
								卒		七
								銀		八
							ス	○		九

攻方持駒 角

受方持駒 なし

※Q:Queen王

■ 107-7 青木裕一氏作

安南最善詰 27手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				と		と		王		一
										二
								王		三
					飛					四
				と					歩	五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 歩4

受方持駒 なし

■ 107-8 占魚亭氏作

AntiAndernach協力白玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
							王			六
										七
									王	八
										九

攻方持駒 飛

受方持駒 角2

※■:Imitator

■ 107-9 占魚亭氏作

AntiAndernach協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
								王		四
										五
										六
									王	七
										八
										九

持駒 香

※■:Imitator

■ 107-10 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力白玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			銀				卒	一
								二
								三
								四
								五
				飛				六
龍								七
								八
馬							偶	九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※偶: 不動王

■ 107-11 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力白玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								一
				王				二
			歩					三
								四
王								五
	飛							六
角								七
								八
								九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

■ 107-12 変寝夢氏作

協力白玉スタイルメイト 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

						王		一
			と					二
								三
			龍					四
			銀					五
								六
								七
								八
						王		九

持駒 n角n蝗

※蝗: Locust

持駒角蝗は共に中立駒

以上

ちょっと早い2019年 年賀詰作品展

今年も終わりに近づき恒例のちょっと早い2019年年賀詰作品展。昨年は4名でしたが、今年は6名の参加となりました。推理将棋も含めてお屠蘇気分ではちょっと手ごわいものもあるようですが、年末年始にお考え下さい。

解答送り先：
 たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)
 解答締切：
 2019年1月18日(金)

1番 神無太郎作
 協力詰 11手

■: Imitator

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
							■	王	九

持駒 金桂

【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【ヒント】

いきなりのImitatorで怯む方も多くいると思いますので大盤振る舞いのヒントです。詰上りの玉位置は19、Imitatorは39で、壁駒打ちなし。

2番 Pontamon 作

猪突猛進の歩

「おっ、息子が帰ってきたか。新年あけましておめでとう」
 「初日の出まで時間があつたから推理将棋を考えたよ。干支の12番目のイノシシにちなんで12手詰さ」
 「おいおい、新年の挨拶も無く、いきなりそれかよ」
 「あきましてツンデノレおめで父さんテヘベロ」
 「ツンデレにテヘベロ？若者言葉には付いていけないな。で、どんな推理将棋？」
 「猪突猛進のイメージで作ったんだ。初手と2手目は飛の着手で…」
 「猪突待った。初手と2手目だと飛は横にしか動けないじゃないか。それじゃイノシシじゃなくてカニだ」
 「ん？"ちょっと待った"って言った？ま、いいか。猪突猛進の手は後手がある筋の歩を4回突いたんだよ」
 「歩か。スピード感に欠けるな」
 「4回連続着手だから歩でもスピード感があるかな。その歩に限らず、動かすのをやめた駒は二度と動かすことはないんだ」
 「もちろん正月らしく煌びやかな駒成はあるんだよな？」
 「いや、駒成は無いよ。でも新年らしく初王手で詰むんだ」

条件

- ・駒成なく12手目の初王手で詰み
- ・初手と2手目は飛の手
- ・後手はある筋の歩を4回突く
- ・動かすのをやめた駒は二度と動かすことはない

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【ヒント】

すいません。これは作意が分らないのでノーヒントです。

3番 変寝夢作

協力自玉スタイルメイト 58手

	科				龍	龍	と	角	一
		金	と	と	と	と	香		二
	金						香		三
		銀							四
	歩							歩	五
					銀	歩			六
	雫		歩					歩	七
	と			歩					八
と	雫	雫	桂	桂					九

持駒 銀香

作者コメント

年賀詰です。玉方の ONI ということで INO(亥)で作ってみました。中盤での鬼らしい動きが狙いです。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で、攻方が合法手のない状態にする

【鬼 (ロイヤル駒)】

一番近いところにいる敵駒を取ることによってのみ移動する駒。距離の測り方はマキシと同じ。(距離は将棋盤を9×9の正方格子とみなし通常の平面幾何的な距離で計算する。持駒を打つ手は距離1と定義する)

★「フェアリー時々詰将棋」での「鬼」の紹介記事 (<http://fairypara.blog.fc2.com/blog-entry-66.html>、及び <http://fairypara.blog.fc2.com/blog-entry-67.html>) を参照のこと

【ヒント】

攻方王がありませんので攻方の駒を全て盤上(持駒を含めて)から消し去ります。鬼は通常の動きとは異なる動きをしますのでご注意ください。特に中盤は不規則な動きになります。龍以外の攻方の1, 2段目の駒は収束まで動きません。

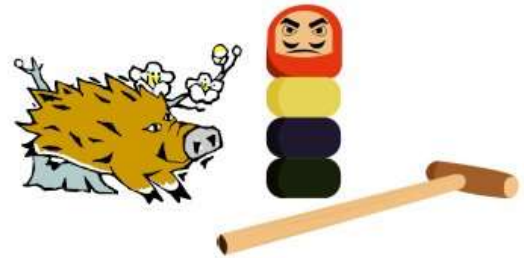
4番 神無七郎作

Isardam協力自玉詰 24手

										一
										二
										三
										四
						と				五
						王				六
						ス				七
						歩				八
						王				九

持駒 なし

旧年中は大変お世話になりました
今年もよろしくお祈りします



【Isardam】(タイプA)

同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。
玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。
成駒と生駒は別種の駒として区別する

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【ヒント】

すいません。こちらにも解が無いのでノーヒントです。

5番 はなさかしろう作

■ 推理将棋×中立駒 年賀 2019

「謹賀新年！ 指し初めしてきたよ」
「賀正！！ どんな将棋にしたの？」
「駒を並べた後、99香を中立駒にしてから対局を始めて、11手で詰んだよ」
「ふうむ。年賀要素がピンと来ないなあ」
「その、1と9がにじゅうで、2019……」
「……こじつけたね」
「それだけじゃないよ。最終手の31n香成が初めての成なんだ」
「なるほど、平成最後の31年だね。でもそれ

だけでは棋譜は再現できないな」
 「あと、歩頭への着手があったよ」
 (条件)

- ・初形配置のうち 99 香のみを中立駒にした局面から 11 手で詰んだ
- ・最終手の 31n 香成が初めての成
- ・歩頭への着手があった

作者コメント

本問は推理将棋×中立駒ですが、導入する中立駒を明かしており、枚数も 1 枚なので通常の推理将棋と同様の感覚で解けると思います。年賀問題はお屠蘇気分で気軽に解けるのがひとつの理想とのことですが、中立駒を使ったことで、残念ながらそこまで易しくはないかもしれません。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【中立駒】

どちらの手番でも動かせる駒。

【ヒント】

推理将棋はヒント出しにくいですね (笑)。
 最後の 31n 香成が直接王手か開き王手かを見極めることが大切です。

6 番 たくぼん作

協力自玉詰 14手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
			●	●	●	●	●	●	皇										二
	皇								飛										三
●		王							玉										四
	●								●										五
			●	●	●	●	●	●	將										六
				●					●										七
																			八
																			九

持駒 なし

作者コメント

不要石がありますが、ご容赦を。イノシシに見えるでしょうか？

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【石 (●)】

不透過・不可侵の領域を表す。飛び越すことは可能。

第106回WFP作品展結果 担当：神無七郎

第 106 回 WFP 作品展の結果を報告します。
 今回の出題は全 9 題。解答者数は 9 名。全題正解者なし。解答の内訳は以下の通りです。

〔第 106 回 WFP 作品展成績〕 (敬称略)

○:正解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
一乗谷酔象	-	-	-	○	○	○	○	○	○	6
テイエムガンバ	○	○	○	-	○	○	-	-	○	6
占魚亭	○	○	○	-	○	-	-	○	○	6
たくぼん	-	-	-	-	○	○	○	○	○	5
はなさかしろう	-	-	-	○	○	○	-	-	○	4
変寝夢	-	-	-	-	○	○	○	-	-	3
井上順一	-	-	-	-	○	○	-	-	-	2
Pontamon	-	-	-	○	○	-	-	-	×	2
詰ガエル	-	-	-	○	○	-	-	-	-	2

全題正解者こそ出ませんでした。すべての作品に複数の正答が寄せられました。また、**106-5** は解答者全員正解。解答陣の健闘が光ります。

作品の方では **106-8** にルール解釈上の問題がありました。詳しくは解説文をお読みください。

■ 106-1 神無太郎氏作 (正解 2 名)

協力詰 11手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二										
三										
四										
五									■	
六									王	
七										
八										
九										

持駒 金歩
 ※■:Imitator

【ルール】

- 協力詰
 先後協力して最短手数で受方玉を詰める。

•Imitator (■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【解答】

17歩 27玉[I26] 37金 16飛
 同歩[I25] 15飛 17飛 85飛[I95]
 19飛[I97] 16玉[I86] 26金[I75] まで 11手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二										
三										
四										
五										
六									金	王
七										
八										
九										飛

持駒 なし

【解説】

裸玉に Imitator が付いただけの準裸玉。
 持駒が金歩しかないので、まずは有効な駒の補充を考えねばなりません。

駒 2 枚と Imitator を利用して駒を稼ぐ手順は一定のパターンがあります。2 枚の駒の一方で Imitator に対する壁駒を発生させ、他方でその壁駒を掠め取るパターンです。本局の冒頭 5 手は、このパターンで飛を稼ぎます。

続く 6 手目から 9 手目が本局のハイライト。

互いに飛を打ち合い、互いに限定移動を行う丁々発止のやり取りです。

まず、受方の飛の大移動。これは Imitator を 9 筋の壁に押し付けて王手を受ける手なので、意味は分かりやすいと思います。

対する攻方の飛も九段目まで移動します。これは本来なら限定移動なのですが、たまたま盤が九段目までしかないので、目一杯動いたように見えます。移動の意味は Imitator を 75 に持ってくるための位置調整です。18 への移動では、上手くいかなことを確かめてください。

最終手は飛と金による縦と横からの両王手。
Imitatorのお陰でもちろん金は取れません。

本局は準裸玉という簡素形ながら、双方の飛を発生させる序盤、互いの飛が限定移動を見せる中盤、そして両王手による鮮やかな詰上がりというストーリー性を有しており、非常に濃密な作品です。

作者はこのところ、共通の構成で駒種の異なる作品をセットで発表しており、今回の3作もその路線に沿っています。次はどの駒が主役になるのでしょうか？

【短評】

変寝夢さん（※無解）

飛の大移動より、じわっとした最終手が印象的。

占魚亭さん

飛の連続壁駒がお見事。
8手目の大移動もいいですね。

ティエムガンバさん

玉と Imitator の位置から見て前回と同様に小技かと思ったら、まさかの飛車による Imitator の大移動。

■ 106-2 神無太郎氏作（正解2名）

協力詰 11手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
							■		七
									八
					王				九

持駒 銀2

※■:Imitator

【解答】

- 48 銀 58 玉[I36] 47 銀[I35] 46 飛
- 49 銀 44 角 46 銀[I34] 71 角[I61]
- 51 飛 59 玉[I62] 48 銀[I61] まで 11 手

(詰上り)

									9
									8
									7
									6
									5
									4
									3
									2
									1
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

前局からの継続ということで、今度は角の大移動が予想されます。

ところが、大駒を稼ぐ手を焦ると本局は解けません。例えば5手で大駒を稼ぐには、

48 銀 68 玉[I46] 77 銀 37 X 同銀[I35] …

というパターンが考えられますが、この筋では11手で詰みません。惜しい紛れは多々ありますが、すべて13手以上掛かってしまうのです。

作意の2手目58玉[I36]から3手目47銀[I35]は(5手目に壁駒を取ることができないので)まるで2手無駄にしたように感じられますが、実はそうではありません。続く4手目と6手目に連続して壁駒を発生させられるので、冒頭8手をトータルで見ると、前局同様「大駒2枚の発生」「そのうち1枚の入手」「もう1枚の限定移動」が実現しています。ちょっとだけ各工程のタイミングがずれただけであって、「急がば回れ」の見本のような手順だったのです。

本局で入手するのは前局と同じく飛ですが、限定移動を行う駒は角です。角が8手目に盤端に移動する理由は、自らが盤端に移動することで、Imitatorを盤端に押し付けて49銀による王手を受けるといったもの。これも前局同様です。

ただ、仮にこの局面から出題されたとしても、苦戦する人が多いと思います。後3手では全然詰むように見えないからです。

ところが飛の遠打(もちろん限定)から、銀をひよいと立って王手を掛けるとあら不思議。飛と銀の両王手で詰んでしまいました。Imitatorの両脇が飛と角に挟まれているため、玉は横に逃げられません。このための飛の限定打だった

のです。

本局は紛れの多い導入部から、不詰感漂う収束部まで、前局を上回る難しさです。これを正解されたお二人の解答者に敬意を表します。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

4手目が対面の指し手の様に見えた。最後4手が圧巻。

占魚亭さん

頭3手は必然。4手目は角と決め打ちしたため、かなり時間がかかりました。46飛以降が濃厚で、文句なしの傑作。

テイエムガンバさん

飛車の次は角による Imitator の大移動。



■ 106-3 神無太郎氏作（正解2名）

協力詰 11手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								■	三
									四
				王					五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀桂
※■:Imitator

【解答】

37 桂 56 玉[I24] 57 銀 67 玉[I35]
68 銀[I46] 45 飛 同桂[I54] 53 香
65 飛 58 香生[I59] 75 飛[I69] まで 11手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
			飛		桂				五
									六
				王					七
				銀	皇				八
			■						九

持駒 なし

【解説】

飛の限定移動、角の限定移動と来れば、否が応でも香の限定移動が期待されますが、本局はそれに嬉しいオマケが付いています。

まずは導入部。これは前局と似たパターンですが、少し駒の移動に手間が掛かっています。最初の5手で下準備を整え、続く3手で飛の入手と、限定移動を行う駒（本局では香）の設置が完了。ここまで既に8手を費やしており、後3手で本当に詰むのか、限定移動は出てくるのか、不安になりますが、心配は無用です。

9手目飛の王手（もちろん限定打）に対し、10手目香の限定移動で対応します。これは盤端に Imitator を押し付けて受ける応手。これも前局・前々局と共通しています。ここで、さり気なく「不成」のオマケが付いているのがポイントです。

最後にちょこっと飛が横に移動し、銀の王手を有効にすると、何とこれで詰んでいます。前局・前々局と異なり、これは両王手ではありませんが、Imitator が銀と盤端に挟まれているため、玉は上下に動けません。76への脱出も飛で防がれています。先程香を不成としたので、銀を取ることもできません。実質的に単騎の銀で詰んでしまったのです。

ここで9手目の飛打がなぜ限定打だったか確認してみましょう。

仮に 9 手目 64 飛だったら、最終手の 74 飛に対し 76 玉[178]の受けが可能になります。9 手目 61 飛～63 飛の場合も同様です。Imitator を楯にすることで、玉が堂々と飛筋に入れるわけです。逆に 9 手目が 66 飛だったら最終手 76 飛に「同玉[178]」と取られてしまいます。玉に取られず、なるべく玉に近い位置である必要があったわけです。

以上 3 局、準裸玉の超簡素形から飛角香の発生と限定移動が登場し、それぞれ限定打や不成などが華を添える濃密な手順が展開されました。解図できなくとも手順を鑑賞するだけで楽しめる充実した作品群だったと思います。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

最終手の間接影挟みが面白かった。

一乗谷酔象さん（※無解、106-1～3 の短評）

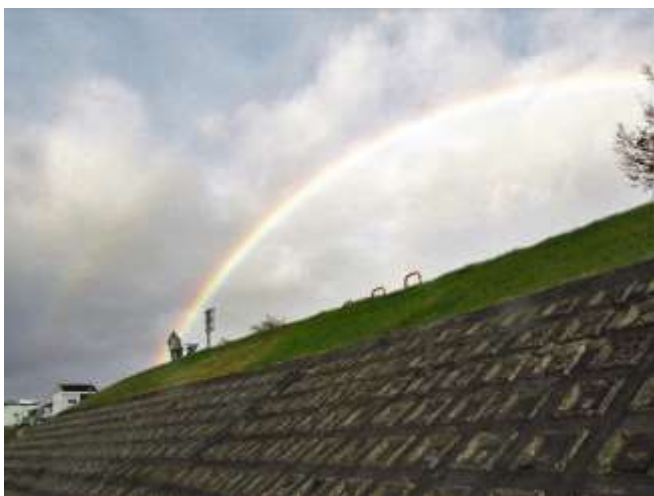
全く筋が見えませんでした。

占魚亭さん

序は Imitator を玉に近づける方針で進め、6 手目に少し悩みました。収束 3 手が上手いです。

テイエムガンバさん

飛角の次は香の大移動、と 106-1～3 と 3 問シリーズで出題されたおかげで予想できましたが、この問題だけで出題されたら多分お手上げだったと思います。



■ 106-4 Pontamon 氏作（正解 4 名）

推理将棋

「同じ駒の連続着手ばかりの対局で、連続は 2 連続と 4 連続で単独着手は 1 回だった」
 「手順が分かった、初手 26 歩から 23 歩成までの 7 手詰だろ」
 「いや、不成は一度あったけど駒成は無い 11 手詰だよ」
 「11 手となると、2 連続が 3 回と 4 連続が 1 回、または 2 連続が 1 回で 4 連続が 2 回のどちらかだね」

【条件】

- 1) 11 手で詰み
- 2) 同じ駒を 2 連続や 4 連続で指す以外の手は 1 手だった
- 3) 駒成は無かったが不成が 1 回あった

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

96 歩 74 歩 95 歩 62 玉 94 歩 73 玉
 93 歩生 84 玉 97 角 93 玉 75 角 まで 11 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	季		季	爵	科	皇		一
	飛							馬		二
王	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
		歩								四
		角								五
										六
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
								飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香		九

持駒 歩

【作者のコメント及び解説】

WFP では空き王手作者と言われるかも。
 今月も空き王手（今回は両王手）の 11 手詰です。

着手を明かす条件なら「7 手目は 93 歩不成」

「歩以外の最初の着手は4手目」くらいでしょうか。7手目までの先手着手は簡単にわかりますが、93に生の歩があつて残り2手でどうやって詰ますのかを悩むかもしれません。

それでもそこそこ難しい作品だったかもしれませんが、最近では着手を明かす作品が続いたので、今回は着手を隠す条件にして難しくしました。(その代わりに、限定できているのかのチェックが大変でした)

駒成の条件は紛れ筋を限定するためのもののようなので、解図の手掛りは「連続着手」です。

11手詰だと先手6手、後手5手なので連続着手ではない1手は後手の着手になり、連続着手を先後に振り分けると

- ①先手は2連続3回、後手は4連続1回
- ②先手は2連続1回と4連続1回、後手は2連続2回
- ③先手は2連続1回と4連続1回、後手は4連続1回の3通り。

連続着手の回数が多い①だと動かす駒は単独着手の駒を含めて最大5つ、②も5つ、③なら4つになります。こんな整理をしたところで先が見えて来ません。

でも、過去の経験から、同じ駒の4連続着手にはかすかな希望があります。先手の歩を3段目まで突いていく手、端玉を詰める作品での玉移動、中段玉やそれを詰ますための先手の金移動、攻めの中心の角の連続着手などが思い出されます。

駒成が無いとのことなので、中段玉を考えてみると

- ▲76歩、△74歩、▲75歩、△62玉、
- ▲68金、△73玉、▲77金、△64玉、
- ▲66金、△54玉、▲55金まで11手

のように先手は金、後手は玉を連続4手で中段へ進出して詰ますことができます。連続着手の条件があるので、初手の76歩で突いた歩は3手目も突く必要があります。

この手順では、確かに駒成は無いのですが、不成1回をクリアできていません。

連続着手の条件をクリアする方法としては短手数の手順に無駄手を加えて実現することも

できそうです。お馴染みの53銀までの手筋で考えてみると、後手玉は52と62を2往復して4連続着手にすると

- ▲76歩、△42銀、▲75歩、△62玉、
- ▲33角不成、△52玉、▲42角不成、△62玉、
- ▲44銀、△52玉、▲53銀不成まで11手

の手順があります。しかし、今度は不成が3回必要になりました。

今度は歩の4連続着手と端玉を組み合わせてみましょう。

どこの筋の歩を突くかですが、端玉と組み合わせることと、歩の他に桂か角を使えそうなので9筋の歩が良さそうです。端玉は5段目か4段目で詰むことが多いので、2手目は74歩として4手目から4連続で95を目指してみると、先手の歩が93歩不成となっていて99の香の利きがあるのでそのままでは9筋へは行けません。

不成で9筋に歩が残っているため、取った歩を打って利きを遮ることもできません。

97が空いているので桂を跳んでみる

- ▲96歩、△74歩、▲95歩、△62玉、
- ▲94歩、△73玉、▲93歩不成、△84玉、
- ▲97桂、△95玉

の配置だと、最終手での詰みはありません。

9手目を桂の代わりに角にしてみると最終手▲86角での両王手が見えますが、85や84の退路があります。でも盤面をよくみると、玉が93で、最終手▲75角の両王手なら逃げ場がありません。端玉と言っても4段目や5段目ではなく、中段を移動してから3段目へ戻るのがタネでした。なお、2手目52飛で玉移動を2段目を通ると両王手の時に82地点の退路があるので成立しません。

条件も手順も異なるので推理将棋では別作品扱いになりますが、詰み上がりは、詰パラ#148(2012年5月号)安江久男さん作

- ・11手で詰み
- ・3手目が歩以外の駒の最初の着手
- ・後手は玉でと金を取ったと同じでした。

【解説】

推理将棋は条件から手順を絞り込んでいくものですが、本作の条件はとても抽象的。同じ駒を連続で動かしたというだけで、具体的なイ

メージに結びつけるのは難しいですね。

雰囲気としては、連続着手によって「後手玉が自分から危ない場所に近づく」、「先手が急所に駒を集める」という方針を立て、各条件と合致する手順を求めれば良いように思えます。

実際、作意も後手玉が危ない所に行く手順になっています。

問題は先手の手順。端歩を突いているだけで、まるで詰みとは関係なさそうです。「先手が急所に駒を集める」という方針にこだわってしまうと、これは盲点になりやすい手順だと思います。急所に駒を集めるのではなく、既に良い場所にある駒(19香)を有効活用するために、歩で香の利き先を露払いし、その筋に後手玉が移動できるよう角で一旦蓋をするわけですが、この手順に思い至るには大きな発想の転換が必要です。

ただ、前回の WFP 作品展を読んでいれば、大きなヒントが得られます。Pontamon 氏自身の 105-6 がそれです。これは玉が4連続移動で1筋に移動し、角の開き王手で詰む作品でした。本作は後手玉の移動先が逆側の9筋ですが、香を利用して、角の開き王手(両王手は開き王手の一種です)で詰む構造は共通しています。条件からこの手順を推理するのは難しいですが、作者の作品の傾向から手順を推理するメタ推理的な手法を駆使すれば正解に早く近付けるかもしれません。

本作のように鮮やかな両王手で幕切れとなる手順は、推理将棋では昔から人気があり、作者のコメントでも歩の成・不成を除いてほぼ同一手順を持つ過去作(安江久男氏作)に言及されています。

もちろん、推理将棋は手順が同じでも、条件が違えば別の作品であり、条件の付け方で作品の価値や作者の腕前が評価されます。安江氏の作品も当時の短評を読むと相当難解だったようですが、本作もそれに勝るとも劣らない難問だったと思います。

【短評】

Pontamon さん

今月は余詰連絡なしで終わりそう。

はなさかしろう さん

オーソドックスな推理将棋らしい手順で、条件付けがコンパクトに攻めてますね。

経験ベースでなんとか解きましたが、論理が組み立てられず、迷ったら嵌りそう。

一乗谷酔象 さん

2連続1つと4連続2つで気持ちいい両王手。先手番の2連続3つも考えたが無駄手が入り届かず。

☆一乗谷氏は作意の解答だけでなく、紛れの検証も行ってくださいました。その上で、余詰が見つからなかったということですから、これは心強い結果ですね。



■ 106-5 変寝夢氏作 (正解 9 名)

リパブリカン協力詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 n銀 n桂
受方持駒 なし
※持駒銀桂は中立駒

【ルール】

• リパブリカン

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

• 中立駒 (「**臨**」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒

だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。

- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【解答】

27n 桂 19n 桂成 28n 銀(+18 玉) まで 3手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
							銀	王	七
								州	八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【作者のコメント】

中立駒での基本的な詰め上がりですね。

【解説】

盤上に何も無い衝撃的な初形。

リパブリカンなので玉がないのは当然ですが、他の配置も一切ありません。裸玉を越える無配置図式です。

裸玉が一番困るのは、余詰が生じて玉の位置と持駒しか調整の余地がなく、それでダメなら対処のしようがないことです。本局のように玉すら置けないとなると、持駒で調整するしかなく、本来なら非限定が大量に出て、收拾がつかなくなるはずですが。

しかし、作者は簡単な方法で余詰や非限定を一掃してしまいました。その簡単な方法とは、中立駒の使用です。

中立駒はどちらの手番でも動かせるため、詰型が非常に限られます。この性質を利用して手順を限定しようというわけです。

しかも、本局の持駒には金がありません。

生の銀や桂での詰型は事実上考えられないので、とどめの駒は成銀か成桂かという選択になりますが、これも少し考えれば成桂で詰め、銀で成桂を支える形に行き着くでしょう。成桂を逃がす受けは構図を最下段に持つことで防ぎます。

詰上りの形が確定すれば、手順も自然に限定されます。入玉型で駒が成れるのは受方の手番のみ。従って、桂を先に打って、直後に桂を成るしかありません。これで詰上り型だけでなく、手順まで限定されるわけですね。

本局は盤上に何も無い無配置図式を「リパブリカン」と「中立駒」で実現した作品です。アイデア自体も秀逸ですが、とにかく初形のインパクトは絶大です。「無配置図式」に代わる良い名称を思いついたら、ぜひご提案ください。

【短評】

井上順一さん

詰上りに思い至れば手順は難しくない。

Pontamonさん

左右の2解があるので誤答か？

☆他の詰将棋欄でも同様だと思いますが、本作品展ではキルケ系等の左右非対称ルールを除いて、左右対称図からの左右対称解は唯一解扱いしています。本局は盤面に何も無いので、左右対称図の扱いです。

推理将棋の場合は初形が左右非対称なので、左右対称解が余詰扱いされるわけですが、その習慣からこの短評が出たのでしょう。

なお、Pontamon氏の解答は初手が28n桂や88n桂となっていました。単なる誤記と思われるので、正解として扱っています。

たくぼんさん

盤面に何も無いというのに作品が成り立つという不思議。

はなさかしろうさん

盤上駒なし！

両王手など一通り考えてしまい、シンプルな

頭n金による単王手が意外に詰みやすいことが思いつきませんでした。

一乗谷酔象さん

後手番で成るしかありません。

占魚亭さん

盤端を使う形となると、これしかないですね。



■ 106-6 変寝夢氏作（正解6名）

非王手可協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			歩	王	歩				一
				皇					二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 n桂

受方持駒 なし

※持駒桂は中立駒

【ルール】

•非王手可

攻方に王手の義務がない。

(王手をして良い)

【解答】

32n 桂 44n 桂 52n 桂成 53n 圭 52 香
まで 5 手

(詰上り)

				香	王	香						一
					香							二
					州							三
												四
												五
												六
												七
												八
												九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【作者のコメント】

初手 4 4 n 桂だと、ここで先手の手番なら作意で詰みだが、後手の手番なので何か指さねばならず詰まない、というのが狙い。

【解説】

「行き所のない駒」で後手の代わりに先手が「パス」をする、という多重の反則のような手順を合法的な着手で実現する作品。

そもそも将棋で「パス」はできません。できたとしても、相手番の「パス」をどうやって代行するのでしょうか？

まずは状況分析です。

もしパスができればこの図は「44n 桂 パス 52n 桂成 53n 圭 52 香 まで 5 手」で簡単に詰みます。桂は中立駒なので、52 香を同 n 圭と取れない(自玉への王手となる)のがミソですね。

そこで「パス」の代替となる受方の手がないか探すわけですが、受方には持駒がありません。盤上の駒を動かしてしまうと詰型が崩れ、パスと同等の手順は実現できません。一見、手段に窮したように思えます。

しかし、ここで秘策があります。攻方の持駒が中立駒であることを利用すれば、受方の代わりに攻方が「実質一手パス」の手を指すことができるのです。

初手 32n 桂がその秘策。これで受方に 44n 桂を指させれば初手 44n 桂と比べて手番だけが変

わった局面になるので、パスをしたのと同じ効果が得られるのです。

中立駒は定義上「行き所のない駒」にならないので、二段目に中立桂を打っても反則にはなりません。ただ、理屈としては分かっている、二段目に桂を打つ手は感覚的に浮かびにくい着手だと思えます。

「パス」ができないことは紛れにも活かされています。もしパスができれば「46n 桂 54 香 同 n 桂 パス 53 香 まで 5 手」の手順でも詰みます。しかし、作意と違ってこの「パス」には代替手段がありません。最初にこちらの紛れを読んだ方は解図に苦労したと思えます。

以上の説明では本局の論理的な面に焦点を当てましたが、手順全体を見るとミニ桂鋸を含む桂の活躍が顕著であり、実際に解図すると、論理性よりむしろ趣向性が感じられる作品だと思えます。

【短評】

井上順一さん

玉方に実質一手パスさせるための初手が気づきにくい。非王手可でなく桂の代わりに成れる駒だったらもっと早く解けたのだが。

詰ガエルさん

いきなり 44n 桂だとうまくいかないのが面白い。

Pontamon さん (※無解)

非王手可協力詰なので规则的には推理将棋と同じなので取り組んでみたが…。駒の配置が左右対称なので普通に考えると 2 解あるはずで、1 解だとすると全てが 5 筋だけの着手になるはず。でも持ち駒が n 桂なので 2 手目以降で必ず複数手順が生じるので推理が成り立たない。

☆こちら推理将棋との混同ですね。本局も左右対称図なので左右対称解は同一視します。

たくぼんさん

54n 桂+53 香型とっていましたがパスが出来ずに参りました。

はなさかしろうさん

参りました。

指したくない1手をどこで消費するのか、手が限られているのに見えませんでした。

一乗谷酔象さん

2手目n桂跳ね以外は3手目指す手がなくスタイルメイトですね。

テイエムガンバさん

中立桂と香の組み合わせによる詰上がりは限定されるので、読みやすかったです。



■ 106-7 変寝夢氏作 (正解3名)

対面協力白玉詰 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				馬				龍	一
王									二
									三
	香								四
									五
									六
									七
									八
				王					九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※51馬は中立駒

【ルール】

• 対面

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

(対象が中立駒の場合、中立駒を手番側の駒とみなして対面ルールを適用する)

【解答】

15n馬 58玉 59n馬 94玉 95n馬 72玉
94n馬 67n馬 12n馬 99龍 まで 10手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
王		王						馬	二
									三
	香								四
									五
									六
									七
									八
龍									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【作者のコメント】

汎濫用だったが、どうも不適合のようなので、n馬の動きには満足しています。

【解説】

攻方の全着手が中立馬。対面ルールにより受方の玉や龍も馬の性能になるので、一層馬の活躍が印象付けられる作品です。

本局は対面ルールに慣れた人なら、馬で玉を追い回し、最後に龍を飛ばして白玉を詰めるというストーリーはすぐに浮かぶでしょう。

仮に 51馬が中立駒ではなく、攻方の馬だったとしたら次のような手順で詰みます。

15馬 58玉 59馬 25玉 26馬 34玉
35馬 61玉 34馬 72玉 12馬 99龍
まで 12手

この手順にはいくつか変化の余地がありますが、玉を飛ばすコースや、馬の軌道を変えても、どれも 10手では詰みません。84歩がなければ 10手で詰む(どんな手順か考えてください)ので、余計に歯がゆいですね。

つまり中立馬の中立性を利用して、どうやって 2手短縮するかが本局の焦点となるのです。

具体的に中立駒の効果が発揮されるのが、7手目からの「94n馬 67n馬」の2手。それまで

馬と玉が交互に動いていて、馬が中立駒であることを忘れる手順が続いていたのですが、ここで初めて「どちらの手番でも動かせる」という中立駒の特徴が活かされます。それまで時計回りに動いていた馬が、突然反時計回りに動き出すので、その点でも意外性がありますね。

本局は対面ルールに慣れた人なら比較的解き易かったと思いますが、そうでないと中立駒と対面の両方の解図能力が要求されるため、苦戦は免れません。対面ルールが流行ったのは主に 1990 年代ですから、その頃のフェアリーに慣れた「古参」のフェアリストに有利な問題だったと思います。

【短評】

たくぼんさん

玉を飛ばすことに気付くのが遅れてしばし考えました。11 龍を見ていて収束に気付きました。N 馬の動きがダイナミックです。

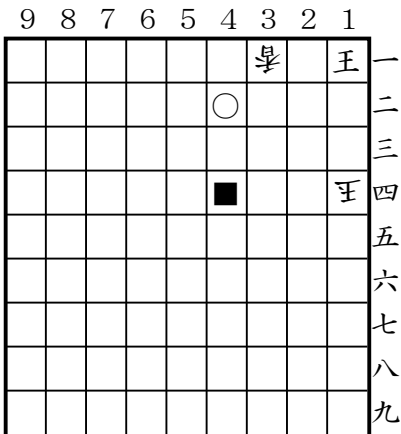
一乗谷酔象さん

収束 4 手が爽快。
4 手目 36 玉以下 37n 馬 72 玉 36n 馬とする左回りは、12 に利かす 45n 馬が王手解消の手でなく手数超過となる仕掛けが巧妙。



■ 106-8 占魚亭氏作 (正解 3 名)

協力白玉詰 5 手 ※受先



持駒 香
※■:Imitator
○:穴 (着手不可、通過可)

【ルール】

•受先

受方から指し始める。

•穴 (○)

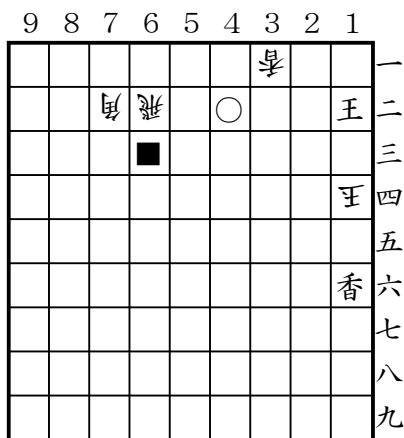
着手はできないが、走り駒が通過することはできる箇所を表す。

(注:本局は **Imitator** が穴に落ちる手は禁じられていない)

【解答】

54 角 16 香 72 角[I62] 12 王[I63] 62 飛
まで 5 手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

出来れば弈は置きたくなかったのですが、初

手 54 飛を消すために仕方なく。2 解にするのはアレですし……。

【解説】

協力自玉詰は自玉を盤端で詰ますのが常道。ましてや盤の隅に居る自玉を動かすことなど考えられません。そもそも隅に居る自玉は（開き王手が使えないので）動かすことすらできないからです。

ところが本局は自玉を盤隅から動かし、二段目に移して詰まします。

こんなことが可能なのは **Imitator** のお陰です。受方玉への王手を **Imitator** が防いでいる状態でこれを移動させれば王手が復活するので、隅にいる自玉を動かすことができます。付け加えると、**Imitator** を使った作品では、玉が盤端にいるかどうかはそれほど重要ではありません。駒を **Imitator** の周囲に集めれば仮想的な盤端がすぐに出来上がるからです。

本局は受先形式なので初手が重要ですが、作意はその初手を **Imitator** の横に角を設置するために使います。この角は **Imitator** の運搬役ですが、これを **Imitator** の真横に打つことで、詰上りにおける自玉の逃げ道を封鎖する壁役も兼ねています。

2 手目は香の限定打。**Imitator** の位置から 18 以遠は王手になりません。17 香だと 4 手目の 12 王[I63]が王手になりません。距離に関連した限定打が出やすいのも **Imitator** の特徴です。

ここからの 3 手はこの香の王手の無効化・有効化の繰り返しです。3 手目は初手に打った角を二段目に移動して、香の利きを無効化。4 手目は自玉を引いて香の王手を有効化。最終手は香を無効化すると同時に攻方の玉を詰める返し技の 62 飛。玉が空中にいるので全然詰んだ気がしませんが、**Imitator** が作る仮想的な「壁」により、玉の逃げ道はありません。この意外な詰上りが本局の生命線です。

また、この詰上りで初手が角である意味が分かります。これが飛だと同様の手順を辿ったときに飛の打場所が 42 になり、「穴」があるため打てません。これが、「穴」を設置した意味だったのです。

上記の余詰は飛を品切れにして防ぐこともできるので、42 に「穴」を置く代わりに受方 65 飛を置くという選択もあったと思います。

ところが、「穴」の使用には大きなルール上の問題がありました。本局は **Imitator** が「穴」に落ちる手を禁止しない設定で作られた作品です（**fmza** の仕様も現在はそうになっています）が、**Imitator** が「穴」に落ちてても良いことはルールとして明言されていませんし、よく考えてみれば不自然なルール設定です。

Imitator が「穴」に落ちる手を禁手とした場合、作意は不詰となりますが、次の 2 通りの詰筋を新たに生じます。

25 飛 17 香 32 香[I45] 12 王[I46] 45 角
まで 5 手

24 飛 17 香 25 飛[I45] 12 王[I46] 45 角
まで 5 手

本局にはたくぼん氏と一乗谷酔象氏のお二人の解答があったのですが、たくぼん氏は作意解、一乗谷氏は上記の 2 つの手順の解答でした。これは **Imitator** が「穴」に落ちる手を禁手と解釈したかどうかの違いです。

これは **Imitator** に関するルールが整備されていないための問題なので、今回はどちらの解釈による解答も正答として扱い、作品自体も（現在の解釈の下で）完全作として扱いたいと思います。

ただ、この問題について占魚亭氏や神無一族のメンバーとも相談したのですが、現在のルール設定は不自然なため、今後は **Imitator** が「穴」に落ちる手を禁手と扱おうということになりました。**fmza.exe** も次に提供される版から、その仕様に変更されます。

実は **Imitator** に関するルール整備が必要なのは今回の問題だけではありません。

例えば「ホッパー系の駒との併用」「キルケ系ルールでの挙動」「複数の **Imitator** の使用」「古将棋の二手分の動きができる駒との併用」等、ほとんど議論されていない問題が残っています。現在の **fmza** ではそれらは禁止されていたり、暫定的な解釈で実装されていたりするので、思わぬ挙動が出現する可能性があります。なお、本家の **Fairy Chess** でどうなっているかという、これもよく分かりません。例えば **StrateGems** のページを見ると **Imitator** については以下のように記述されています。

Colorless piece; cannot capture; moves only in dependence of other pieces, its move being simultaneous to every piece's move, parallel and of same length and direction. If a line piece's move is imitated, the imitator's path MUST NOT be blocked. Neither can the imitator be moved outside the board. If complete imitation is not possible, the respective move is illegal. This is even true for checks.

(http://www.strategems.net/sections/fairy_defs.html より)

この定義で **Leaper** 系の駒や、**Rider** 系の駒と絡んだときの挙動については分かるのですが、それ以外についてはよく分かりません。既発表作を漁って、それらを参考にすることも可能だと思いますが、将棋独自の駒やルールが絡む場合については、独自に整合性のあるルール設定を考える必要があるでしょう。

これについては、できれば **Imitator** 愛好家の皆さんに、ルールにまつわる問題点を整理し、何らかの案を示して欲しいと思います。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

持駒がなければ、この最終形でも詰んでいるのですね。

たくぼんさん

いろいろ並べていたら、見つかりました。これはラッキーでした。

一乗谷酔象さん

42 地点の穴は余詰防ぎなので気にしないでとの出題コメントだが、17 香打で穴を利用する攻防。余詰かな。

☆一乗谷酔象さんの解答のおかげで、潜在していた問題が明らかになりました。**Imitator** が穴に落ちるのを禁手とした時の 2 解を両方解答されたのもお見事です。

■ 106-9 青木裕一氏作 (正解 5 名)

最善詰 5 手

					王					一
									飛	二
										三
										四
						■				五
										六
										七
										八
										九
王										

持駒 金

※■:Imitator

【ルール】

•最善詰

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。(補足)

- いわゆる普通の詰将棋から枝葉(無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則)を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数之余詰は不問。

【解答】

42 金 44 角 32 飛成[155] 22 角[133] 99 王[143] まで 5 手

(詰上り)

					王					一
					金	龍	馬			二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九
王										

持駒 なし

【作者のコメント】

Imitator を最善詰で使ってみました。

【解説】

本作品展で **Imitator** を使った作品は、今まで協力系ルールばかりでした。本局は初の対抗系ルールです。

初形はいかにも頭金を打ってくださいと言わんばかりの形。実際、作意も頭金なのですが、もちろん頭金の1手詰ではありません。盤上に **Imitator** があるため **44** に何か打って受けることができます。

では何を打てば良いのでしょうか？

攻方には強力な継続手があります。**44** に何を打っても次の **32** 飛成で金と龍による両王手が掛かります。通常ならこの両王手で決まりなのですが、これを防ぐ手段が一つだけありました。

それが **2** 手目 **44** 角です。

この角を使って **Imitator** を **33** に運べば、金の王手は龍の壁で、龍の王手は金の壁で防がれます。両王手を掛けている2枚の駒を同時に壁として逆用する見事な返し技です。

でも、攻方にも奥の手がありました。

最後にポツンと離れた場所にある玉が動いて両王手を復活させる手です。今度こそ両王手を防ぐ術はありません。

本局では **89** に玉を置いています。これは他の配置にも変更できます。「左に動けて下には下がれない」という条件を満たせば良いので、飛龍馬金のどれでも良いですし、置き場所も **99** 以外なら九段目のどこでも構いません。例えば **79** 飛の配置だと一つ横に移動する手が限定移動になる（行き過ぎて **99** 飛[**I53**]とすると **31** 玉[**I43**]と戻され、再び **89** 飛[**I33**]とする手が必要になる）ので、筆者なら **89** 玉の代わりに **79** 飛の配置にしていたと思います。

対抗系ルールで **Imitator** を使うと詰ましにくいイメージがありますが、本局を見る限りそれは単なる先入観だったように思います。**fmza** でも **Imitator** を使った最善詰は検討できるので、今後この分野の開拓が進むことを期待したいと思います。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

4 手目までは数分でわかったが、最終手が浮かばなかった。先手玉が余詰消しだけのはずがないと思わないと。

Pontamon さん（※誤解）

短手数での詰みしか見つからなかった。

☆**Pontamon** 氏は **3** 手目で詰みとした誤解。両王手を防ぐ手は盲点になりやすいようです。

たくぼんさん

初手 **42** 金でどうやっても詰むとかなり悩みました。凄い防手があるものです。

はなさかしろうさん

最善詰とのことでいつも以上に慎重に。

他の王手のかけ方もひと通り試み、**5** 手以内では詰まない受けがあることを確認したつもりですが…イミテーター問題は気が抜けませんが、果たして…

一乗谷酔象さん

3 手詰かと思ったが角の防手があった。

占魚亭さん

かしこで壁駒入りのものを作るのは難しいと思っていましたが、なるほど、こういうふうになればいいのか。

ティエムガンバさん

89 玉が自玉だけに **5** 手目は指しづらいです。



【総評】

変寝夢さん

駒の進行方向に imitator の元位置があるパターンが考えにくい。今回は 106-9 の最後の1手詰がわからなかったのが残念です。

Pontamonさん

今年は WFP 作品展への定期的投稿を開始するとともに、解答も頑張ったが棋力不足。急に棋力が上がるわけもなく、来年も今のペースを維持することになりそう。

(同じペースには、余詰作数は含まないw)

☆来年はぜひ余詰0を目標に頑張ってください。

たくぼんさん

2桁を越える imitator は余りにも手が広すぎて手に負えませんでした。今回は情けない解答ですいません。

☆今月 16 日、地元で行われた「桐山清澄杯将棋大会」に参加しました。A級（三段以下）のクラスでしたが、予選は二勝一敗で何とか通過、本選トーナメントは2回戦での敗退という中途半端な成績でした。時計の押し忘れや、時間が切迫してからの指し手の乱れなど、ブランクの影響もありましたが、基本的には実力でしょう。(参加者の中には 20 年以上実戦を指していないという、私以上にブランクの大きい方もいらっしゃいました。) 会場には子供、女性の姿もあり、昨今の将棋ブームの広がりを感じました。これが詰将棋ブームに繋がるかどうかは微妙ですし、ましてやフェアリー詰将棋には縁のない話ですが、将棋（詰将棋）が趣味であることを公言しやすい世の中になったのは良い傾向です。この日は将棋を5局も指して疲れてしまったので、敗退後は早々に帰宅したのですが、職団戦等に出ていた頃を思い出して、少し懐かしく感じました。これからも機会があれば詰将棋に影響が出ない程度に将棋を楽しもうと思います。

以上

WFP サロン

第106回WFP作品展106-8、2つ？の修正図

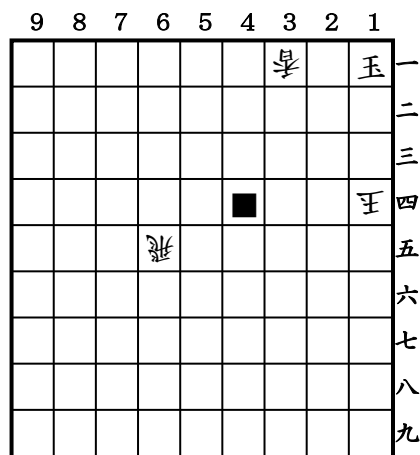
占魚亭

106-8 ではご迷惑をおかけしました。

「(現在の解釈の下で)完全作として扱いたいと思います」と神無七郎氏が解説で書かれていますが気持ち悪いので、解説にもある 42 穴→受方 65 飛の図を修正図にしたいと思います。

【修正図】

協力白玉詰 5手 (受先)

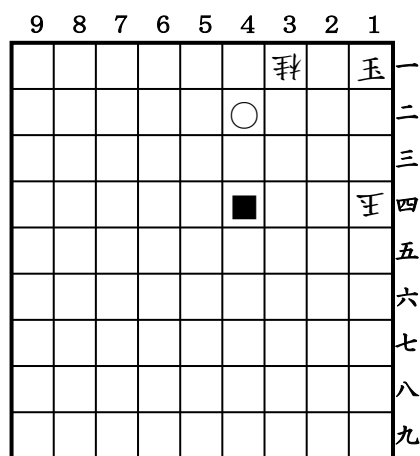


持駒 香

また、一乗谷酔象氏指摘の手順も捨てきれないので、受方 31 香を桂にして成立させてみました(急拵えなので、穴を使わなくても成立する構図があるかも)。

【一乗谷酔象氏指摘手順を作意にした図】

協力白玉詰 5手 (受先)



持駒 香

※■ : Imitator

※○ : 奔 (着手不可、透過)

Fairy of the Forest #57 結果発表

- 2018年09月20日:課題発表:(協力詰)
「自由課題」
- 2018年11月15日:投稿締切
- 2018年11月20日:出題
- 2018年12月15日:解答締切
- 2018年12月20日:結果発表

■ 結果発表

【今回の解答者】(敬称略、到着順)
(○は全題正解者)

- 神無七郎、○たくぼん、変寝夢、井上順一、
- 林石、○占魚亭

■ 57-01 神無七郎 協力詰 21手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	香	一
									歩	二
						歩	歩	王	香	三
					銀			桂	香	四
					桂	角	香	香	五	
								香	六	
								香	七	
								龍	八	
									九	

持駒 金4

22金 同角 13香成 同角 22金 同角
 13香成 同角 22金 同角 13香成 同角
 22金 同角 13香成 同角 14龍 34玉
 25龍 23玉 15桂 まで 21手

(詰上り図)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								玉	香	一
									歩	二
						歩	歩	王	香	三
					銀			桂		四
					桂	角	龍	桂		五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

作者一象碁攻格第9番や将棋舞玉第40番と共通した主題を持つ作品です。取れる駒を取らずに退避させ、その駒で邪魔駒を取って貰います。「汎濫48」には間に合いませんでしたが、古典詰将棋にはフェアリーにも使える主題がたくさんあると思います。

☆最初の出題図で攻方の香が1枚足りていませんでした。不手際をお詫びいたします。

林石ー協力しているはずなのに、気前よく金4枚も渡して玉方角を生かす手順が不思議です。

☆13香成と角を取ると、34玉で全く手出しができなくなります(23角は同桂で無効)。そこで22金と角を退避させ13に香を空成りする、という手順を繰り返すことになります。

占魚亭ー楽しい順次香成趣向でした。

井上順一ー意味が分からなくても、4香消去はまず考える。収束があっさりしていてよい。

変寝夢ー収束が見えなかった。龍筋を通すために相手の角を利用してますね。

☆香4枚を消去して18龍が世に出れば、いよいよ収束です。14龍~25龍と桂を入手し、その桂を打って幕となります。

たくぼんー最近解いた七郎さんの作品のなかで一番簡単だった気がします。香を消去するのに取らせる駒を避難させる作品の主題もユーモラスでもありますね。

☆作者が言及しておられる攻格9番や舞玉40番については、「詰将棋博物館」等をご参照ください。

■ 57-02 青木裕一 協力詰 23手

受方の持駒：なし

										一
										二
										三
										四
										五
						歩	と	歩	歩	六
						入	歩	王		七
						歩	飛			八
						角	玉			九

持駒 なし

28飛 17玉 27飛 18玉 28飛 19玉
 29飛 18玉 27角 17玉 19飛 27玉
 29飛 28角 同飛 17玉 27飛 同玉
 49角 38飛 同角 17玉 19飛
 まで23手

(詰上り図)

受方持駒：なし

										一
										二
										三
										四
										五
						歩	と	歩	歩	六
						入	歩	王		七
						歩	角			八
							玉		飛	九

持駒 なし

作者—狭い玉を飛角で追う趣向です。飛、角ともに位置を調整するために一旦受方に渡します。

占魚亭—易しいミニパズルという感じ。17手かけて受方に飛車を渡すわけですね。

井上順—狭いところでの持駒変換。初形で38飛が玉方の駒なら3手詰、を実現する手順。

神無七郎—初形と20手目を比べると飛が逆を向いているのが狙いでしょうか。

☆初形図のままでは膠着状態が開けないので、受方に駒を渡し、それを合駒で取り戻すことを考えます。12手目に角を渡し、14手目28角合。それを取った飛車を27で取らせ、49角に20手目38飛合。この局面は、初形の攻方38飛の向きが変わり、受方の駒になっています。

変寝夢—箱庭物は苦手だが、これくらいならなんとか。最後、合駒がないのをうっかりしていた。

林石—ピッタリ4×4で解きたくなります。当初は最終17玉で18玉29角19玉18飛までの25手かと思っておりましたが、受け方の持駒に注意です。

神無七郎—最初は収束の2手を「18玉29角19玉18飛」として2手超過。合駒なしの特殊状況を使った詰上りとは意外でした。

☆合駒なしを利用した詰上りは、大方の意表を衝いたようです。

たくぼん—合利かずを失念して25手で彷徨いました。ときどきうっかりします。こういう作品をたくさんの方に解いて頂けると協力詰中編の楽しさが伝わると幸いですね。

☆ほどよい難易度で、回収手筋や詰上りの面白さも味わえ、協力詰入門として最適でした。



受方持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								香	一
					銀	香	香	香	二
				桂	香	桂	香		三
									四
						香			五
			香	香					六
						王	入		七
			歩		桂		歩	飛	八
				角		歩		玉	九

持駒 歩4

38歩 同玉 27歩 同玉 17飛 26玉
 16飛 25玉 15飛 24玉 13飛成 25玉
 14龍 26玉 15龍 37玉 38歩 46玉
 47歩 45玉 46歩 44玉 45歩 同玉
 34香 46玉 47歩 同玉 17龍 38玉
 18龍 37玉 38歩 26玉 15龍 27玉
 16龍 38玉 39歩 37玉 38歩 46玉
 35香 47玉 17龍 38玉 18龍 37玉
 36桂 46玉 37角 57玉 48角 58玉
 15角 49玉 48龍 まで 57手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								香	一
					銀	香	香	香	二
				桂	香	桂	香		三
						香			四
						香		角	五
			香	香		桂			六
									七
			歩		龍				八
					王			玉	九

持駒 なし

☆出題図は「受方持駒：歩2」だったのですが、次のような疑問が提示されました。

神無七郎—受方持駒が「歩2」である理由は分かりませんでした。受方持駒「なし」だと何か

不都合があるのでしょうか？

たくぼん—後手歩合する場所も無いので後手持駒歩2枚はなしでもいい気がするがどうなんだろう？

☆作者に確認したところ、

作者—いま冷静に考えると、特に理由はないようです。創作の過程での残渣のようです。すみません。持ち駒なしに修正ください。

☆ということですので、この結果稿では「受方持駒なし」と訂正しておきます。

占魚亭—角の利きを通すまでの手続きに何度か躓きました。

☆59角の利きを通すのが当面の目標ですが、それを達成するには邪魔駒を順次捌いていく必要があります。つまり、59角を遮っている邪魔駒を順に辿ると「48桂→36香→35香」となりますが、その連鎖を逆向きに「35香→36香→48桂」の順にほどいていくのが解図の筋道となるわけです。

作者—飛車を(すぐ)成ってしまうのは、ちょっとした盲点で気に入っています。もう少し何とかしたかったのですが。欲張かな。

神無七郎—この形だと飛は成らない方が得という先入観があるので、作意に入るまで少し時間が掛かりました。

☆上記の邪魔駒の連鎖を解消する方法は、具体的には開き王手です。48桂→36桂は59角による開き王手で大丈夫ですが、35香→34香および36香→35香は1筋の飛による開き王手しかありません。ところが、12飛のピンがあるので1筋の飛は成っても成らなくても開き王手する働きは変わりません。協力詰では攻方の駒が強すぎるとかえって詰みにくい場合が多いのですが、本作の場合は例外で、駒の可動性と詰上りとの連関を考えると、生飛より龍の方が上回っているのです。

林石—部室で助言を貰いつつ2枚の香を移動させるところまでは進みましたが、そこからの開き王手の形は自力ではとても浮かびません。歩

の事前消去や燃料切れを回避する細かい手順もいいですね。(VMを用いて解図しました。)

☆VMというのは自己プロミングのことですかね？ 自分で作成されたのなら…ということで正解扱いとしました。部室ということは、将棋部なんでしょうね。楽しみ(苦しみ?)つつ解図していただき、ありがたく思っています。

☆38歩には26玉、27歩…としても手は進められますが、38歩が残っていると37玉とできなくなります。また、いったん打った47歩を46歩～45歩と消去しておかないと、46玉と戻れなくなります。かくして、15龍の形で34香、16龍の形で35香と邪魔駒を移動させます。途中で打った38歩の消去というきめ細かい手順を交えながら、47手目18龍に37玉、36桂となって、ようやく59角が世に出ます。

神無七郎—最後に角筋が通って受方の飛筋を遮断する収束は爽快です。本局のように、邪魔駒の連鎖を一つずつ解きほぐす渋滞解消型パズルは、解いて面白いだけでなく、かなりの発展性を秘めていると思います。

☆37角～48角～15角という活用により12飛のピンが外れ、48龍までの詰上りとなります。ここでも飛を成った効果が現れています。

たくぼん—程よい謎解きで好みの一作。

【総評】

神無七郎—問題数が少ないので「総評」は省略しました。

☆問題数は相変わらずですが、解答数が増えたのは救いです。

林石—解答締切ギリギリとなってしまう申し訳ありません。

☆初解答ありがとうございます。

変寝夢—一目詰みそうな作品があると助かります。

☆01がよい客寄せになったようですね。

たくぼん—気軽に解ける難易度で楽しめる作品群でした。中・長編の難しくない作品は解いて楽しいですね。

☆難しすぎなかったのが解答者増の要因でしょうか。楽しんでもらえてよかったです。

Fairy of the Forest #58課題発表

- 2018年12月20日：課題発表：(協力詰)
「自由課題」
- 2019年02月15日：投稿締切
- 2019年02月20日：出題
- 2019年03月15日：解答締切
- 2019年03月20日：結果発表

■ 課題発表

スケジュールがずれたままですが、1月締切ではない方がかえってよいのかも知れません。新年もよろしくお願いします。

(投稿先)
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

(追記) FOF # 57 の解答について 酒井博久

☆解答者の林石さんから以下のような申し出がありました。

WFP126号掲載の Fairy of the Forest 結果稿を拝読致しました。拙い解答ですが掲載していただきありがとうございます。一点気になった点があります。57-03についてはVMを用いて解答しましたが、この解図プログラムは自作ではなく変寝夢氏作のものです。(Fairy BBSから入手可能)

そのため、私は正解者に当たりません。無解扱いになることを明示していなかった点を深くお詫び申し上げます。お手数ですが、私の短評に関連する箇所と全題正解者ではない旨修正して頂きますようよろしくお願いいたします。

☆事前にご本人に確認しておかなかった私も責任を感じています。林石さんもこれに懲りることなく、ご解答・ご投稿をお願いします。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2018年1月18日(金)

ちょっと早い2019年年賀詰作品展

フェアリー作品 4題
推理将棋 2題

2019年2月15日(金)

第107回WFP作品展

フェアリー作品 11題
推理将棋 1題

作品募集締切一覧

2019年2月15日(金)

Fairy of the Forest #58

協力詰 (自由課題)

投稿先: 酒井博久
(sakai8kyuu@hotmail.com)



あとがき

先日 twitter を眺めていましたら、青の KK さんがこうつぶやかれていました。

青の KK

「現在のプルーフゲームの最長手数 は 86 手で、作者はご存知橋本哲氏。・・・」

橋本哲 (Problem Paradise 2012)

プルーフゲーム 86手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
ス	♀			♁	王	♁	ス	と	一
	♁			♁	♁	♁	♁	歩	二
	♁	♁	♁	♁	♁	♁	♁	歩	三
杏	♁						♀	と	四
						ス	♁		五
	飛	歩				玉			六
	歩		歩	歩	歩	角	歩		七
	金							杏	八
		銀	金			銀			九

持駒 なし

話の流れは、最新の数学セミナー誌に斎藤さんが青の KK さんと中村さんのプルーフゲームを紹介されているところからでした。

申し訳ないことにこの橋本作を私は知りませんでした。しばらく眺めていて、思いました。この作品はどこから考えればいいのか...

ちょっとした解答魂に火が灯った感じでしょうか。WFP 1 号のメイン企画は中村さんのプルーフゲームでした。それも思い出しました。時間がとればこの作品に挑戦してみようかなと...

たくぼん

2018年 第126号

Web Fairy Paradise

非売品

平成三十年十二月号

平成三十年十二月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先 takuji@dokidoki.ne.jp

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp